九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

中国専門職大学院における学生の入学経路及び進学動機に関する一考察 ： 吉林省での調査をもとに

王, 佳
九州大学大学院 ： 博士後期課程

https://doi.org/10.15017/1929743

出版情報：飛梅論集. 18, pp.19-31, 2018-03-20. Graduate School of Human-Environment Studies, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

九州大学大学院教育学コース院生論文集，2018，第18号，19-31頁
Bull. Education Course, Kyushu U., 2018, Vol.18, pp19-31

中国専門職大学院における学生の入学経路及び進学動機に関する一考察

── 吉林省での調査をもとに ──

王　　佳*

1．はじめに

本研究は専門職大学院の学生を対象に中国の専門職大学院における院生の入学経路及び進学動機を検討するものである。

社会人による専門職大学院教育への参加度が高まりつつある傾向が世界でも共通して見られているものの、各国においては専門職大学院教育の構造が大きく異なっている。中国では、専門職大学院の内部には「全日制専門職大学院」と「非全日制専門職大学院」の２つに分けられる。

中国では、初期の段階での専門職大学院教育の発展は緩やかであった。中国の大学院制度が成立した初期から、専門職大学院は長期休暇を取ってフルタイムで学習する、あるいはパートタイムで大学院に通学する社会人を中心とする専門職教育を実施している。1990年に国務院学位委員会第九次会議では最初に専門職学位として「工商管理修士」（MBA）が認められた。1996年に国務院学位委員会が作成した「専門職学位設置審批暫行弁法」のなかで、専門職学位は「職業的背景を有する一種の学位として、特定職業の高レベル専門人材を養成するために設置する」学位であるとされている。しかし、1996年に全国の専門職大学院の進学者は3,394名にとどまっている。

2000年以後、高等教育大衆化と大卒生の就職難に伴い、政府は大学院エリート教育を維持するため、大学院レベルの職業教育の重要性を強調し、大学院在学者の５割を専門職大学院に入学させるという目標を設定した。これに基づき、一連の強力な政策が推進され、専門職大学院は急速に拡大した。専門職大学院の進学者は1996年の3,394名から2012年の319,471名まで増加した。さらに図１と図２に示すように、学位授与数は1996年にわずか848人だったが、2012年に198,046人へとほぼ234倍に増えた。2012年に専門職修士学位授与数が全体の35％以上を占めるようになり、2011年より27.77％を増加した。2010年まで中国の専門職大学院生を育成する機関数は大学で481ヶ所となっている。

また、新たな特徴として、その量的拡大に並行して専門分野の多様化が進んでいる。中国では、最初に設置された専門職大学院学位はMBAであり、その後、「法律修士」、「教育修士」、「工程修士」「公共管理修士」、「応用心理修士」などそれぞれ専門職大学院教育の実施を開始している。2009年に

*九州大学大学院博士後期課程

教育部はエリート教育の部分の維持を図るために、全日制専門職大学院学位を打ち出した。いわゆる全日制専門職大学院は、大学新卒者を主な募集対象として、学生にフルタイムで学習させ専門職大学院教育を受けさせる制度である。全日制専門職大学院は、大学生たちには１つの進路として選択され、彼らの就職、生き方に関わり、大学院教育拡大の一翼を担うことになった。2017年までに、新設された大学新卒者向けの全日制専門職大学院を含め、40種類の専門職大学院学位がある。つまり、大学院教育の改革の進展に伴い、専門職大学院の規模を拡大していくことが予測される。学生にとって、進学選択の範囲を拡げ、入学経路、進学動機も多様化している。

前述したように、20世紀90年代、即ち最初の市場経済への転換期に、専門職大学院教育の発展は緩やかであった。2000年以後、経済環境、政府政策と高等教育大衆化の影響の下で、専門職大学院教育は急速な拡大に転じた。しかしながら、このような急速な拡大により、高学歴の価値を失くさないため大学院の教育の質の保証、新設された大学新卒者向けの全日制専門職大学院の社会的評価や認知度、専門職大学院修了生の就職問題といった様々な種類の葛藤や課題が現れている。陳（2010）は高水準の実用性を必要とする職業人材が欠乏していると述べる。一方で、院生が修了しても就職できない窮境に陥ってしまい、社会的需要と人材の供給のバランスが不均衡になっているという問題を指摘した。大学院生の規模の拡大と労働市場ニーズとの距離がある。更に、専門職大学院卒業生の社会的評価は学術型修士ほど高くない。『中国青年報』も大学院生の就職情勢は明るくなく、2009年から2011年まで３年連続で、大学院生の就業率は学部生より就職率が低いという記事を掲載した。

その社会背景において、専門職大学院の学生がどのような進学動機をもっているのか十分に研究されていない。専門職大学院の学生の入学経路によって、彼らの入学動機を研究することが必要で

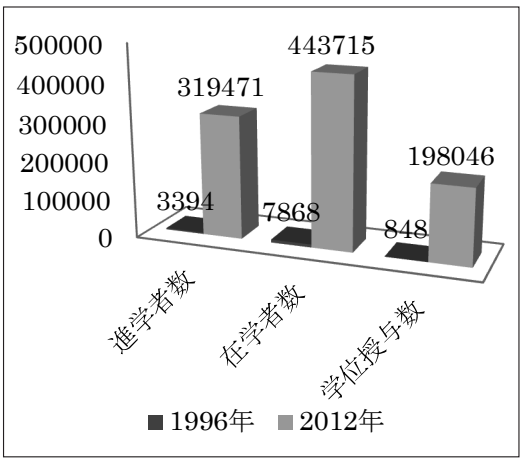

図１　専門職大学院教育の量的拡大

出所：『中華人民共和国大学院教育と学位制度史』、pp.489、『中国学位と大学院教育発展年度報告（2013）』、pp.188より作成

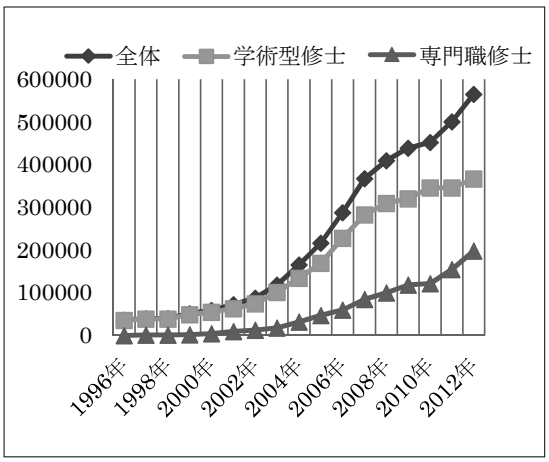

図２　大学院における在学者数の変化（1996年－2012年）

出所：『中国学位と大学院教育発展年度報告（2013）』、pp188より作成

ある。そこで、専門職大学院におけては、学生の進学動機はどのような実態が見られるのか、またその進学動機をもたらした要因はいかに存在しているのか、検討したい。本研究では、吉林省での重点大学と普通大学の専門職大学院院生を対象に行った調査データに基づいて、院生の入学経路が進学動機にどのように影響しているのかを明らかにする。まず、先行研究を検討し、進学動機の実態を全体的に把握する。次に、本研究の分析データと方法について説明する。そして、その分析結果によって、専門職大学院への入学経路と進学動機の関係を明らかにする。

２．先行研究の知見

中国では、大学院教育改革の推進に伴い、大学院生の急激な量的拡大、全日制専門職学位の登場などを背景に、教育学研究者の間に専門職教育への研究関心が生まれ、理論的、実証的な研究が着手されるようになった。従来の専門職大学院に関する先行研究は、大きく分けて３つに集約される。

2.1 専門職大学院に関する制度・政策研究

マクロな視点による中国の専門職大学院に関する政策の展開については、黄宝印（2007）、吳鎮柔・陸叔雲（2001）、南部広孝（2002）は、各学位教育の展開時期、代表性的な会議と法律法規、専門職教育のレベルや規模などをめぐって検討した。

専門職大学院に関する制度については、満（2012）は2009年より中国で実施された全日制専門職大学院の学位制度（試験選抜制度、入学制度、学費制度、指導方式、修了要件）を明確に示すことによって、その性質を指摘し、さらに大学生の進路選択の視点から提言した。全日制専門職学位課程の受験者に関しては、学術課程の受験者を基本にそれと同等な資格が定められている。非全日制専門職学位課程の受験者に関しては、年齢、仕事などの限定的な条件が付されている[(1)]。黄（2008）と李（2010）は中国における専門職大学院教育の発展プロセスと構造の変化を検討した。南部（2015）は、中国における専門職大学院入学者選抜のありようについて、検討した。

一方、比較研究として、吉田・橋本（2010）は日本の専門職大学院制度化の過程を分析し、進学者の特色とその変化に関して、統計データをもとに、その問題点を指摘した。胡（2016）はアメリカにおける専門職大学院教育の進学規模と変容を整理し、その人口、経済、高等教育、科学技術などの影響要因を分析した。比較的視角から見た専門職大学院教育の研究は、斉・陳（2012）は中米両国の専門職大学院の発展に焦点をあてて比較し、その発展の軌跡の特徴を解明し、中国の専門職大学院に対する改革の構想を提起した。

2.2 専門職教育に関する実証研究

以下、アンケート調査を中心としたこれらの調査研究の要点を、院生によって、院生の能力評価、専門職大学院のカリキュラムに対する満足度や、教員に対して指導力評価専門職大学院などの側面から概観する。

張（2011）は2010年に大学院生を対象に質問紙アンケート調査を行った結果、大学院生による全日制専門職大学院に対する評価がそれほど高くないことと、養成課程が学生に対して、その目標を示していないことを明らかにすることができた。楊（2013）は教育修士課程の設置、具体的な授業の内容、課程の構造と実施、学生の満足度と評価を調査し、教員の研修のチャンスが少ないことによる実践不足の問題を提示した。王（2012）は全日制専門職大学院生と研究系大学院生のカリキュラム、教員の指導状況などを比較した。指導教員制、論文などを調査した結果、環境整備が足りず、教員による指導が不十分ではあるが、実習のための施設を作り、研修を十分に行っていることが明らかになった。黄（2012）は、MBA 卒業生の社会的評価について、労働市場の需要、入学試験の難易度などの影響要因を分析した。

更に、中国の特定の大学が事例研究の対象として専門職教育に関する実証研究がある。安田（2015）、関（2007）は、清華大学は中国の専門職大学院の先進的な事例として扱われていると述べた。王（2007）と康（2011）はそれぞれ清華大学における全日制・非全日制工程修士人材養成の実践を検討した。関（2007）も東北大学、大連理工大学など地方大学の連携活動に関する調査・分析を行った。呉（2012）は同済大学における工程修士の専門職教育を考察し、校内の企業実習により良い企業実習の環境を提供していると述べた。

2.3 専門職大学院に関する進学動機

先行研究のなかで、大学院進学者の進学動機に関する研究があるが、専門職大学院の学生の進学動機に関する研究は少ない。韓（2016）は大学院進路の目的の全体的傾向に基づき、学術型修士と専門職学位修士の進学目的の差異を議論した。学位の種類別の進学目的を見ると、学術型修士は「よりよい仕事のため」という目的で進学しており、就職のことを強く意識している。専門職学位修士は修士号の取得に関心を示しているといえよう。しかしながら、これまでの研究は、専門職大学院の学生に焦点を当てた研究は限られており、課題として残っているといえよう。特に、学生の進学動機の少なさという限界がみられ、全体を概観したる調査を行うことが重要である。その実態を深くまで把握する必要がある。

3．調査の概要とデータ

本研究の分析のデータは、2017年８月から９月にかけて中国吉林省における A 大学（上位校）専門職大学院修士１年生と B 大学（中位校）の専門職大学院の修士１年生と対象として、実施された「専門職大学院における学生の進路動機に関するアンケート調査」の結果である。

吉林省を調査地域として選定した理由は、現在、中国では、中国の省や地域によって経済レベルと教育資源の格差が存在する。同じ省内においても都市部と農村部の格差ならびに、進学した都市出身の学生と農村出身の学生との教育状況や意識は異なるである。吉林省は東北地域の中心地として、中国の農業生産の中心を担ってきた。吉林省は数多くの大学や高等専門学校などを保有し、全

国から優秀な学生を募集する。対象とした大学については、中国の下位校では、専門職大学院が少ないため、上位校か中位校を選ぶ必要があった。更に、大学院の設置形態の影響を避けるために、本調査は吉林省の重点大学（上位校）と普通大学（中位校）を選定し、国立大学と省立大学という階層的構造になっている。

調査校の概要については、1990年代中期に専門職学位の試行が始まった時、それは大学院教育の革新的試みであった。学位制度の改革の初期から、高等教育機関は最も重要な役割を果たしてきた。重点大学の役割は、新たな学位を開発して新たな人材育成モデルを築くことである。A 大学は教育博士の専門職博士号、教育、法律、応用心理、工程、工商管理、会計、金融など19種の全日制・非全日制専門職修士号を担当している。2015年に全日制教育専門職修士の募集の人数は教育管理５名、小学教育25名、心理健康教育５名、就学前教育８名と応用心理24名である。非全日制教育専門職修士の募集の人数は150名である。B 大学は、1958年に地方の教師養成を目的として設立された省立総合大学です。B 大学では、58学部及び４つの一級大学院修士課程を設置している。教職員総数は1,200名、在校生は17,213名です。その中に大学専任教員626名、専門技術職教員が275名、博士と修士が452名ぐらい在籍している。

その調査は大学院専門職学位の管理者と各学院の教員に協力を依頼し、授業時間に専門職大学院院生を対象としたアンケート調査を行われた。この質問紙の配布数は２つの専門職大学院で合計277部、回収した中での有効データは263である。そのうち、２大学の有効回答率はそれぞれ96.9％と85.4％である。表１はサンプルの構成を表すものである。

調査の専攻分野は、教育、法律、翻訳、中国語国際教育、体育、芸術、金融、応用統計、応用心理学、ソーシャルワーク、国際経営学などがある。しかしながら、２大学は、文系と理系があるが、医学と工学系が含まれていないという限界があるものの、学術型大学院あるいは学部生の進路動機に関する先行研究に対して比較可能なデータとなっており、重点大学と地方大学の専門職大学院を対象とした点で意義があり、一定の代表性をもっている。

４．調査結果と分析

本研究では、専門職大学院の学生の入学経路と進学動機の特徴を明らかにする。まず、単純集計分析によって、学生の入学経路と進学動機・理由について。重点大学と普通大学と比較しながら、その特徴を検討する。次は、相関分析によって、出身大学や出身専攻の違いが進学動機とどのよう

表１　調査対象の概要

専門職大学院	配布数	回収数（男性/女性）	回収率
A 大学	229	222（44/178）	96.9％
B 大学	48	41（10/ 31）	85.4％
合　計	277	263	94.9％

に関係しているか検討する。

4.1 進学者の入学経路

本研究では、入学経路については、A 大学と B 大学の専門職大学院の学生の入学方法と受験の準備期限、２つを取り上げる。入学方法として、全国大学院入学統一試験と重点大学推薦入試がある。専門職大学院の学生の選抜は下記のように行われている。選抜試験は初試と復試がある。初試試験科目は外国語、政治、教育学総合科目試験(2)。国家試験に合格したら、大学からの復試に参加することになる。復試はテストと面接からなる。最後に指導教員との面接を行う。または、直接に各大学に申請、復試をする(3)。

全体の入学方法を表２で見ると、本研究では、一般の全国統一試験が96.2％で、２つの大学を合計すると入学者の９割以上を占めている。各大学からの推薦入試は3.8％しかない。その推薦される入学者は全部、重点大学にいる。このように、専門職大学院の進学者の格差がきわめて目立つようになった。

受験の準備期間について表３でみると、半年の準備期限が最も高く、全体の55.5％を占めるようになった。一年間をかかった学生の数も圧倒的に高く、全体の38％を占める。それに対して、二年と二年以上の準備期限は、それぞれ全体の4.9％、1.3％しかない。

4.2 進学者の進学動機

本研究では、「親・親戚の希望と支持」、「周りの友人からの影響」、「先生の推薦」、「進学は過去の理想」、「専攻分野・職業を換える」、「奨学金が支給される」、「就職・転職に有利」、「学生生活を楽しんでみたい」、「高い学歴・資格をとるために」、「より高い社会地位とより広い人間関係を得ることができる」、「専門的知識や技術を学び」、「視野を広げ、教養を高める」、「適切な仕事がなくて、就職を回避する」、「大学の名声、教員、教育資源など」については、それぞれ、「全く重要でない＝１」から「とても重要＝４」の４件法で設定した。

最初に専門職大学院の学生が進学動機として何に重要な点を置いていたのか検討するために、ここでは、進学動機の度数分布について分析していこう。図２は専門職大学院の進学動機の単純集計の結果を示したものである。まず、「とても重要」を選択した項目については、６割を超えるのは「高い学歴・資格をとるために」、「専門的知識や技術を学び」、「視野を広げ、教養を高める」の３つの項目である。最も少ない項目は「適切な仕事がなくて、就職を回避する」と「奨学金が支給される」ことであることが確認できる。更に、そのアンケートの中で、「卒業後、どの進路を選択したい

表２　本学への入学方法

	一般の全国統一試験	推薦入試	合　計
度　　数	254	9	263
パーセント	96.29	3.8	100

表３　入試の準備期間

	半年	一年	二年	二年以上	合計
度　　数	146	100	13	4	263
パーセント	55.5	38	4.9	1.5	100

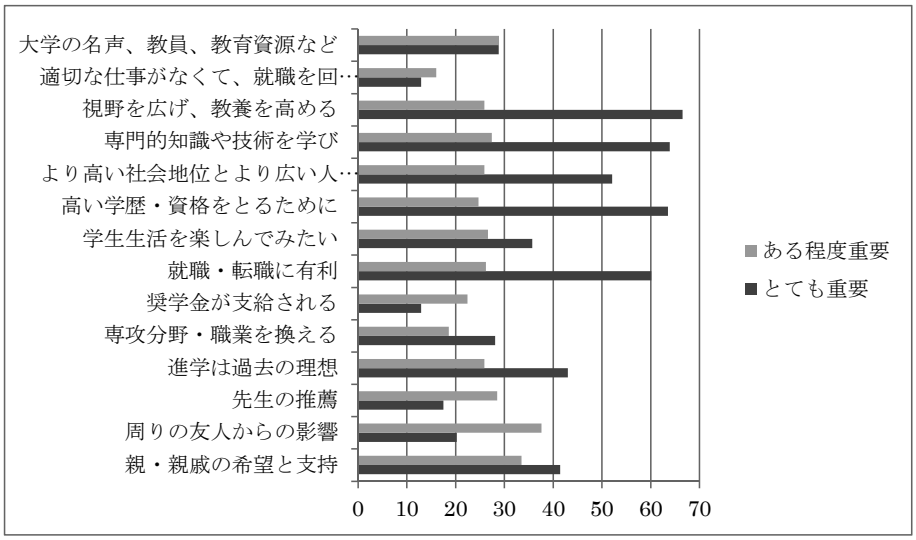

図３　専門職大学院に進学動機（%）（度数＝263）

ですか」という問いに対する回答は、ほとんどの院生は「博士後期に進学」、「インターンシップ」、「分からない」より、「すぐ就職」を選んだ。専門職大学院への進学者は、「博士後期課程」への進学希望が低い、「就職の志向」が高いという傾向がある。

また、進学動機の解釈を分かりやすくするために、その14項を「知識探求型」「他者影響型」「社会・職業影響型」及び「機会型」４つにカテゴライズして分析を行う。４つのカテゴリを具体的に示すと、「知識探求型」は「専門的知識や技術を学ぶ」「視野を広げ、教養を高める」「大学院レベルの教育がほしいから」、「他者影響型」は先生、友達、親・親戚などの周りの人に影響されやすい項目から構成されているもの、「社会・職業影響型」は「就職・転職に有利」や「適切な仕事がなくて、就職を回避する」「大学の名声、教員、教育資源」「高い学歴・資格をとるために」など、将来の進路・就職と社会の生活を考える項目、「機会型」は、「専攻分野・職業を換える」「奨学金が支給される」といった自分の利益を考えるものである。

以上のとおり、専門職大学院の進学者は、大体明確な目的がある「知識探求型」の志向という進学動機をもっている。また、目的が不明確なまま進学した者については、周囲の人または外部環境からの影響を受けた進学者は、将来の就職や社会生活などの職業志向という進学動機をもっている。更に、目的が曖昧なまま自分で選んだ進路者については、例えば「奨学金の有無」を理由として、考えている進学者はいるが、人数が少ない。その原因として考えられるのは、就職難を回避し、高い学歴の収益を求める大卒者と違い、大学院の卒業生はほとんど就職できるからである。つまり、進学者は将来の知識・能力・学歴をも獲得してよりよい仕事に就きたいと考えて専門職大学院への進学している。

4.3 出身大学・専攻と進学動機の関係

進学した学生の出身大学・専攻と進学の結果を図４で見ると、ほとんどの学生は第一志望で進学する。75.7％の学生の専攻は変えなかったが、一方で、83.3％の学生の大学を変更している。更に、性別と出身地に見ると、学生の進学希望の選択がどのように影響を与えるのか、みられるのであろうか。表５に示しているように、大学を変えた女性進学者の割合が高くなっている。しかし、専攻を変えた男性進学者のほうが女性進学者に比べて、割合がかなり高いが、男女間には大きな区別は見られるということがわかる。一方、全体的には、都市部からの進学者は、農村部からの進学者に比べて、大きな差異は見られないというがわかった。以上のように、大部分の進学者の出身大学と進学大学が違い、特に、女性より、男性のほうがその専攻を変えた希望を強く持っている。出身地ごとに見た場合に、都市部と農村部との間の差異はあまり見られなかった。

表７に示されたように、「大学レベル」と「大学を変えたか」の２者が相互に正の高い相関をもっているが、「大学レベル」と「専攻を変えたか」の２者が相互に負の高い相関をもっている。つまり、重点大学では、多くの進学者は普通大学から選抜された。一方、重点大学から直接的に進学した学生の専攻は大体変えなかった。出身大学の違いが学生の進学志向に影響を与えるということをみることができる。

その原因については、中国の専門職大学院における学生の進学動機は、専門職大学院の変遷を軸に検討しておくべきと考える。中国の専門職大学院は主に政府が発布した政策にしたがって行われる。1970年代末から1980年代初めにかけて、大学院教育の人材育成モデルは単一的で、主に「学術

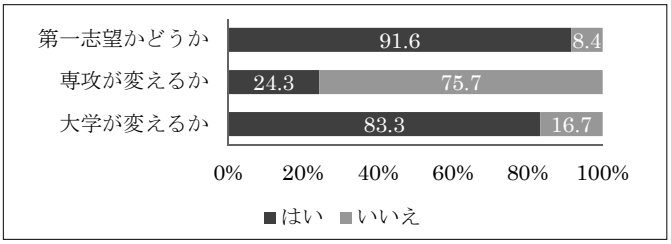

図４　院生の進学志向（％）（度数：263）

表４　「出身地と大学・専攻を変える」のクロス表（度数：263）

		農村	都市	合計
大学	変更	42.6%	40.7%	83.3%
	変更せず	12.5%	4.2%	16.7%
	合計	55.1%	44.9%	100.0%
専攻	変更	13.7%	10.6%	24.0%
	変更せず	41.4%	34.2%	75.6%
	合計	55.1%	44.8%	100.0%

表５　「性別と大学・専攻を変える」のクロス表（度数：263）

		男性	女性	合計
大学	変更	16.4%	66.9%	83.3%
	変更せず	4.2%	12.5%	16.7%
	合計	20.6%	79.4%	100.0%
専攻	変更	7.2%	17.1%	24.3%
	変更せず	13.3%	62.4%	75.7%
	合計	20.5%	79.5%	100.0%

型」人材を養成していた。大学側の学術型大学院生養成では社会側の要求との矛盾を解消することは新しい課題となった。専門職大学院教育の目的は社会発展の需要に適応できる「高度専門職業人」を育成することにある。

更に、学歴社会では、普通大学より、就職に成功する要因は有名な大学の学歴（985プロジャック・211プロジャックの大学）を獲得することによって、就職苦境から脱出しようとする傾向にあるといえる。また、同じ大学では、学術型大学院より、専門職大学院に入学しやすいので、専門職大学院を選ぶということがわかった。

表６　「大学レベル と 大学を変える」のクロス表（度数：263）

		出身：重点大学	出身：普通大学	合計
進学大学	変　更	74.1%	9.2%	83.3%
	変更せず	10.2%	6.5%	16.7%
	合　計	84.3%	15.7%	100.0%
進学専攻	変　更	16.3%	8.0%	24.3%
	変更せず	68.0%	7.7%	75.7%
	合　計	84.3%	15.7%	100.0%

表７　入学結果の相関分析

	大学レベル	大学の変更	専攻の変更
大学レベル	1.000	.285**	－.269**
大学の変更		1.000	0.017
専攻の変更			1.000

** 相関係数は１％水準で有意（両側）です。
注：*p ＜0.05、**p ＜0.01、***p ＜0.001（N ＝263）

５．考　察

以上、中国の専門職大学院院生の進学動機の実態及び規定要因を明らかにした。最後に、本研究の結果をもとに、中国の専門職大学院のあり方を検討していこう。

まず、専門職大学院教育の問題については、専門職大学院の量的拡大の代わりに、大学院の質は下降している傾向があった。したがって、専門職大学院教育は引き続き、院生育成の質、特に、「教養を高める」ことと「専門的知識や技術を学ぶ」こと、を重視すべきである。また、大学院生の就業率は学部生より就職率が低いが、就職難を回避し、高い学歴の収益を求める大卒者と違い、大学院の卒業生は就職しやすい傾向があるので、重点大学でも、普通大学でも、ほとんどの進学者の動機は、勉強に集中して将来のよい仕事を就きたいことになるのである。

次に、入学方法、受験の準備期限を見ると、進学者は大体、一般の全国統一試験で半年のほどを

準備した。入学の方法は、専門職大学院への進学動機に対して、全く影響を与えないということがわかった。

更に、出身大学・専攻は専門職大学院への進学動機と強い関連を持っている。男性は、専攻を変える目的で専門職大学院に進学する傾向が強い。それに対して、女性は、専攻を変える意識がやや弱い。同様に、進学者の出身地については、都市部からの進学者と農村部からの進学者の間、彼らの進学動機は差異が少ない。

しかし、大学の知名度・レベルによって、専門職大学院を選択する傾向が強い。普通大学からの進学者は、研究志向ではなく、将来就職しやすいため、重点大学に進学した。つまり、学歴社会で、大学レベルは、専門職大学院への進学動機と強い関連を持っている。

以上の考察の結果を踏まえ、中国の専門職大学院のあり方に対して、以下のような示唆を持っている。第一に、学生は、専門職大学院の教育に求めるものは、学生の属性によってかなり異なっている。したがって、学生のニーズにあった職業教育を実施すべきである。第二に、社会需要の変化によって、専門職大学院に対する認識上の変化を生じることによってもたらされる。社会改革が進み、社会や市場の影響が強くなり、学生の進路は高学歴を要する社会的地位の高い職業とは限られないと考えられるであろう。

最後に、今後の課題を示す。専門職大学院の多様化時期において、大学院の規模が拡大していくために、専門職大学院課程の在学者として、新規大卒生の比率も増加している。しかしながら、2009年より新規大卒生に対して専門職教育を実施し始めた。社会人と新規大卒生との養成方式の違いについて明らかにする必要がある。

＜注＞

（1）　共通点としては、まず、選抜方法の決定や、選抜の実際の過程に対して教育部が強く関わっている点がある。その具体的な試験の内容を伴った実施要項が教育部から公布されている。専門職大学院入学者選抜ではそれに加えて、各分野レベルの専門職大学院教育委員会も選抜過程に深く関わっている。一方、重点大学と普通大学の相違点として、大学院入学者選抜では、特に個別機関による面接試験が行われており、重点大学の自主裁量権がより大きい。また、大学院入学者の募集方式、選抜の多様化が進行してきている。

（2）　2016年より在職者攻読修士学位全国連合試験は実施しない。在職者攻読修士専門学位の学生募集計画は全国の大学院生募集計画に組み入れられ、全日制と非全日制に分けて通知される。高級管理者経営学修士（EMBA）を除き、その他の在職者攻読修士専門学位の学生募集は、非全日制大学院生の教育の形式で国家学生募集計画や全国修士課程大学院生統一入学試験の管理に組み入れられる。

（3）　大学院入学者選抜では、政治理論科目や外国語、数学などの基礎的な科目は、全国統一で出題されている。教育学、心理学、医学などの個別の専門分野は全国的に統制された選抜が行

われ、他の専門分野は、大学単位で出題されている。最後、大学院入学者選抜で、推薦による試験免除方式が取り入れられている。ただし、これらの入学者は全体からみれば、少数にとどまっている。

＜参考文献＞

吳鎮柔、陸叔雲、汪太輔、2001『中華人民共和国大学院教育と学位制度史』北京理工大学出版社、pp.201-230、pp.217-221。

教育部学位と大学院教育発展センター、2014『中国学位と大学院教育発展年度報告（2013）』中国人民大学出版社。

中華人民共和国教育部発展企画司、1996-2012のデータ『中国教育統計年鑑』人民教育出版社。

陳曦、2010「中国における専門職学位の動向」『名古屋高等教育研究』名古屋大学高等研究教育センター、pp.237-251。

中国青年報　http://www.chinanews.com/edu/2012/07-18/4039720.shtml（2018/1/12最終アクセス）

黄宝印、2007「我国専業学位教育発展的回顧与思考」学位と研究生教育出版社、pp.4－8。

南部広孝、2002「文革後中国における大学院教育」広島大学高等研究教育センター、pp.72-82。

満都拉、2012「中国の全日制専門職大学院のあり方について：大学生の進路選択の視点から」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第52巻、pp.287-296。

李敏、2010「中国の社会人大学院教育」『広島大学　高等教育開発センター　大学論集』第41集、pp.167-183。

黄梅英、2008「中国における社会人大学院教育の構造」『尚絅学院大学紀要』第56集、pp.161-174。

南部広孝、2016『東アジアの大学・大学院入学者選抜制度の比較 ── 中国・台湾・韓国・日本 ──』東信堂、pp.49-50。

吉田文、橋本鉱一、2010『航行を始めた専門職大学院』東信堂。

胡莉芳、2016「アメリカ専門職大学院教育の規模と変容に関する研究」『中国高等教育研究』第２期、pp.81-86。

齊欣、陳巍、2012「中美專業碩士教育發展歷程比較」『池河學院學報』32(4)、pp.112-114。

張建功、2011「中美專業學位研究生培養模式比較研究」博論　華南理工大學。

王曉琴、2013「全日制專業碩士与學位碩士培養的比較研究 ── 以首都師範大學碩士的培養為例」碩論　首都師範大學。

楊君、2013「全日制教育碩士專業學位課程設置研究」博論　西南大學。

黄梅英、2012「中国における「専門職学位」課程 ── MBA 卒業者の社会的評価」『尚絅学院大学紀要』第64号、pp.75-85。

安田英、董光哲、2015「中国大学の産学連携活動の実態と課題」江戸川大学紀要　第25号、2015年、pp.71-77。

王東紅、劉東、2007「中国における工学修士の養成モデルに関する実証研究」『重慶大学学報』第13巻、pp.131-134。

康妮、王鈺、沈妍、劉慧琴、2011「以工学創新能力為核心的工学人才培養探索與實踐 ── 清華大學工学碩士研究生教育創新總結」『研究生教育研究』第６期、pp.61-64。

関満博編、2007『中国の産学連携』、新評論。

吳志軍、李燁、曹靜、陳毅、于卓平、畢迪迪、2012「同濟大學車輛領域全日制專業學位研究生校企聯合培養模式的探索」『學位與研究生教育』第８期、pp.36-39。

韓冀娜、2016「中国における大学院への進学意識：学術学位と専門職学位の比較」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊』(23-2)、pp.1-12。

高静、2013「中国の地方都市における大学生の就職意識 ── 家庭背景による社会関係資本の影響を中心に」『中国四国教育学会　教育学研究ジャーナル』第12号、pp.11-20。

Empirical Study on Admission Route and Entrance Motivation of Students in Professional Graduate School in China

WANG JIA

In the early 1990's, the Chinese government requested human resources for professionally vocational abilities by reforming it as a national strategy. And part-time professional graduate school was demanded being responsible for vocational education.

Since 2000, expansion of graduate schools have been progressing steadily due to popularity of higher education and difficulty in obtaining positions for the undergraduates. To deal with this, the government emphasized the importance of vocational education at the graduate school level and set a goal of achieving 50% of undergraduate students enrolled in professional graduate schools by a full-time or part-time-time learning course. To achieve this target, a series of influencing policies were promoted and professional graduate schools expanded rapidly. Being a new degree, the full-time professional degree has received tremendous attention from the society. Meanwhile, the graduate schools become more diversified than before.

Based on survey data collected in professional graduate universities in Jilin Province, China, this research focuses on investigating how the admission route of graduate students in professional graduate school affects their entrance motivation. This contents are mainly composed of three parts of contents as follows.

Firstly, related previous research are summarized. After reviewing national policies related to post-graduate school since 1990, a nationwide promotion of the professional graduate school was clearly concluded.

Secondly, survey methods and data used in this study are introduced. Based on samples collected from two types of universities (i.e. national key university universities and local universities) individual students' opportunities of entering professional graduate school are analyzed.

Finally, the relationship between the entrance pathway to the professional graduate school and its motivation is investigated.